

第 29 回恵那市歴史的風致維持向上計画協議会 会議要旨

日時：令和 8 年 1 月 15 日（木曜日） 15:30～17:00

場所：佐藤一斎學びのひろば 1 階セミナールーム

公開又は非公開の別 公開

出席者

出村嘉史会長、後藤俊彦副会長、森川彰夫委員、堀誠委員、鈴木繁生委員、山田敏之委員、市岡美咲委員（代理出席）、鈴村幸宣委員、長谷川公盛委員

欠席者

石井伸吾委員

傍聴者 0 名

1. 開会 (15:30)

2. 委員委嘱

山田敏之委員、市岡美咲委員に対して委員委嘱を行った。

3. あいさつ

出村会長

私自身はこの歴史的風致維持向上計画がとても重要だと考えている。佐藤一斎の言葉にあるように、これまでの歴史をちゃんと見ながら、これから生きる自分たちの歴史も見つめていく必要がある。来た道を検証してただ観光の材料として扱うのではなく、「これからも生きていく」という「活力」の部分を計画の中に組み込んでいくとよいと考えながら、毎回この会議に参加していた。だからこそ、歴史的風致維持向上計画はその場限りの計画ではなく、狙いをもって導いていくことはできないかと、これまで繰り返し申し上げてきたところだ。

今日の会議では、事務局でそのような企みがあるようであり、楽しみにしている。

4. 議事

第2期恵那市歴史的風致維持向上計画 事業内容の追加について

事務局
(服藤、西尾)

(資料2に基づき事務局から説明)

堀委員

「おおわご遺跡資料館、岩村歴史資料館、岩村民俗資料館、山岡郷土史料館、串原郷土館を旧岩村町役場庁舎（旧岩村振興事務所）に集約し…」とあるが、上矢作町にあるたくさんの資料については対象になるのか。上矢作町には「資料館」はないが、かなりの資料がある。

事務局
(服藤)

上矢作町にある資料についても、整備する資料館にて保存・活用する予定である。

出村会長

各地にある歴史資料を保存活用する、というような文言があるとよいかもしれない。今のままだと市内13地区にあるすべての資料の保存をここに集約する、というイメージになってしまふが、この認識でよいか。

事務局
(服藤)

すべてを集約するのではなく、市内各地で保存するものについては、市から支援を行う予定でいる。

堀委員

合併前の旧恵那市では資料の集約が進んでいたが、恵南地域はそれぞれの地域が資料を保管している状況。資料2にある文章には上矢作の資料についての記述がなかったので、気になって質問した。

別の質問をしてもよいか。新しい歴史資料館の整備に充てる補助金は、やはり歴まちの補助金が一番良いのか。博物館整備に対する補助金は他にもある気がする。

事務局
(服藤)

現在観光庁の支援メニューで、この資料館整備が該当するような補助金があった。この条件が本計画に記載があることだった。

出村会長

常に財源は必要になる。本来は展示を面白くすることで維持しつづけるべきだが、実際は税収で何とかしようとしている。この点については、改めて考える必要がある。歴史資料館には、いわゆる乾きものを置くだけでなく、人が集まる求心力を持たせたい。求心力を持たせるには新しい企業とタッグを組み、カフェを設けたり飲食を提供したりして、その場を盛り上げつつ稼ぐことが必要。これは行政単独でできるものではない。PPPのような仕組みがあった方がよい。

博物館の整備事業は、とても素晴らしいことと思う。だからこそ、人を集める求心力を持たせることが必要と思った。

この会議室の横には図書館があるが、図書館も今同じような側面を持っている。例えば中津川市の「ひとまちテラス」や岐阜市の「ぎふメディアコスモス」は、図書館の中で人が交流する仕組みがつくられている。

これだけ歴史的な遺産のある恵那であれば、単なる施設整備にとどまらず、場をどうつくっていくのか、という視点で考えなければならない。資料2にあるように整備事業と書いてあるだけで終わらせないでほしい。

事務局
(服藤)

文化課としては、施設だけではなく「岩村町」という「面」で動かしていく必要があると考えている。私の中には、博物館と文化財を連携させ、「稼ぐ文化財」にしていくことを念頭に置きながら取り組んでいきたい、という思いがある。

出村会長

それは、課内だけでやる必要はない。「この場所に博物館を建てる」という方向に恵那市全体でなっていく方向づけをし、まずは歴史的風致維持向上計画に書いてあることを示し、そのうえで今後の展開について議論を重ねる必要がある。そうした意味で、この計画が極めて重要である。計画に何を位置づけているのかが問われる。本日の議論がそのきっかけとなればよい。

他の委員の皆さんはどう思われるか。

長谷川委員

私は市役所建設部に所属しているため、どちらかというと事務局側の意見になってしまふことを了承いただきたい。会長が述べたとおり、民間との連携、PPPについては手法のひとつとして検討する必要があると考えている。この計画の書きぶりとしては、「民間との連携を図りながらより良い手法を検討していく」というようなものにできればと考えている。

出村会長

検討してみた結果、既存の建物に収まらなくなつてもいいと思う。例えこの施設の駐車場部分を活用して新たな施設を整備する、といった選択肢も考えられる。ぎふメディアコスモスにスターバックスが入っているようなイメージである。

先週高山市を訪れたが、そこにも立派な資料館が整備されていた。各部屋には多くの資料があったが、来館者は少なかった。街中には多くの人がいるのにも関わらず、施設まで足を運ぶ人は限られていた。歴史に関心の高い人しか来ないような場所になってしまっていて、寂しい印象を受けた。そこに面白みを感じる人が寄り付いて、よりよい場所になることがとても大事。

今長谷川委員がおっしゃったとおり、PPPの点について、「検討する」くらいでいいので入れるといいかと思う。

他の観点で意見があればぜひ伺いたい。

山田委員

皆さんと街並みを守っていきたいと思っているが、実際空き家が増えてきていて、これからどうなるか不安に思うことが多い。これからもこのまちが住み続けていけるまちであってほしいと思っている。

それぞれの家には貴重なものがたくさん残っていると思われる。ただ、まったく知られずに捨てられるなどしていることが惜しい。それらに価値を見出して整理し、新しく整備される施設で活用されるとありがたいと思った。

出村会長

「歴史として扱わないといけない歴史」というものと、例えば今山田委員が述べたような、家の中に残っているものや蔵の中にあるものといった「普段見えないけど迫力のある歴史」があるが、後者については人に触られたくないという思いが少なからずあると思う。例えば、海外から来た人がどうぞやと入ってきて荒らされるような観光のあり方が取り入れられたら、たまらなく嫌ではないか。密かにしておいたものを常に開示することに対して、葛藤が生まれるかもしれない少し思った。博物館に展示されて、何百万という人が入ってきたとして、秘めていたものをパシャパシャと写真撮られる、というのが果たして望んでいることなのかを考える必要がある。

鈴村委員

この施設の1階部分（佐藤一斎學びのひろば・図書館分館）を整備するときに、子どもや子どもを連れた家族の居場所というイメージをもっていた。

図書館部分については「人が集まる場所」というコンセプトで整備し、カフェとまではいかないが、コーヒーマシンがおいてあって、本を読みながらゆったり過ごしていいような施設とした。もちろん図書館ではしゃべってもいい。集中したい人は、奥に別部屋を設けているので、そこで学習してもらっている。今までこの地域にこういった学習スペースがなかった。今日も実際にセミナールームの横で自習している人がいるが、まさにここは地元が望んでいるひとつの形になったかと思っている。

オーバーツーリズムという観点についても、1階部分を整備するとき、この小さな恵那で、何百万人も人が来るような観光が必要なのかということを考えた。何百万人も人がここに押し寄せることは、この恵那の地にはそぐわないと考えているのが事実だ。

守るべきものは地域の皆さんと守りつつ活かすのだが、既存の歴史資料館に眠っているものもあるので、これを順番に少しずつ入れ替えしながら展示していきたいと思っている。個人のお宅にあるものは、大切に持っていたくのもひとつの考え方と思っている。考え方方が両面あるイメージ。

この場所は観光バスが駐車場に停まる。この立地をうまく生かしたいと考えている。そこは運営方法も含めて、観光ツアーの中に博物館の見学を含めてもらうなども本文にいれてほしい、という気持ちもある。

出村会長

両面という考え方には「多様性」ともいえるので良いと思う。

例えばこの施設が企画して「お宝訪問ツアー」を行うとかは面白いかもしれない。参加する人が料金を支払う形式にするとか。

先ほど山田委員が述べた意見は、これから重要になってくる。

図書館があると子どもたちのたまり場になるということはアピールできていると思うが、その一方で、やはり施設を運営するためにはお金が必要になってくる。民間だと自分が提供するものに対してお金を取ることができる。文化的な施設では、こういったことが取り組まれるべきだと思う。

ほかに意見はあるか。

鈴木委員

この計画 자체は良いと思う。集約した後が気になるが、使わなくなった資料館等についてはどうすることを考えているか。解体撤去という形なのか。

**事務局
(服藤)**

5年以内に解体を考えている。歴史資料館の整備には施設集約という理由で起債することを予定している。起債することの条件として「5年以内の解体」をする必要がある。

鈴木委員

わかった。もう1点意見がある。私も旅行先で歴史資料館のような施設を好んで入るのだが、民俗資料館はほぼ人がいない。どこも似たり寄ったりな気がする。

新しく整備する2階の資料館は、上手に展示していただくことを望む。人が集まる工夫があるとよい。

出村会長	本当に運営次第だと思う。それゆえにお金が必要。 「佐藤一斎學びのひろば」はどのように運営しているのか。
鈴村委員	指定管理で運営している。NPO 法人いわむら一斎塾が運営を担っている。 施設の維持管理については市、その他の運営については指定管理としている。
森川委員	実は私は一斎塾に入っていて、維持管理しているメンバーのひとりである。先週 11 日に当番でこの施設にいたが、天候が悪かったこと也有って、来館者は午前中 2 人、午後 2 人、という感じだった。正直暇だった。 そんな状況のため、運営委員会でも来館者を増やす取り組みを検討しており、学校に働きかけをすること、企業に研修としてどうか働きかけることを考えている。こういう施設は人が来ないと意味がない。先ほど会長が述べたような民間との連携について、正直どう取り入れたらいいか今すぐには思いつかない。 会長に質問だが、高山市は民間との連携をしているのか？
出村委員	連携していない。連携してないのでうまくいっていないと思われる。 例えば旅行会社にツアーを組んでもらってみるという考え方もある。恵那に観光 DMO はあるか？
長谷川委員	ある。岩村にはない。
出村委員	そうか。私はこういうことについてはハード整備よりソフトが効くと思っている。居場所をつくって飲食するスペースができれば、という話は少し難しいが、ソフトならできる。例えば、観光のあり方をブレイクダウンしていくことはどうか。岐阜でもやっているが、岩村在住のまちのことをよく知る○○さんと△△さんが岩村を案内する、というように、いろんな角度で案内人を用意し、これを有料ツアーにするもの。 例えばこれが「学びの場所をつくる」というプログラムになってもいいし、「誰かを呼んで講演会をする」でもいいと思う。人が集まって飲食させるより、文化的なコンテンツがあった方がいいかもしれないとも思った。 こういうアイデアが現場から出てくると一番面白いと思う。 ほかの意見があれば聞きたい。
後藤委員	恵那市合併から早 20 年という印象。合併前になじんでいた旧恵那市に比べると、恵南地域ははじめていない印象がある。 岩村に集約するという話になると、他地域から「なぜ岩村だけそんな金使うんや」とか「こっちにも予算まわせ」というような意見が出る。恵那市はひとつになれない。
出村会長	ちょっと変わったことをやろうとすると抵抗がある。「佐藤一斎學びのひろば」の入館者数が少ない理由のひとつにそれがあるんじゃないかなと思ってしまう。例えば山岡の人がここに見に来たかどうか考えてみると、調べたわけじゃないけど、少ないと思う。
後藤委員	とても重要な観点。ただ集約して終わりにならないようにしないといけない。交流が実際にひとつでも増えることを願いたい。
鈴村委員	時間がたてばある程度コミュニケーションが取れるようになるかもしれないが、それがいつになるかといわれると何とも言えない。

	例えば、岩呂中学校で行っている実践女子学園中等部の学生との交流会。岩村町は実践女子学園の創設者である下田歌子氏の出身地であるため、この交流会は岩呂中学校とだけ交流会を行ってきた。統合することにより、岩村町以外の地域から集まる生徒たちも交流することができるようになる。
	こういった形で、岩村だ、山岡だ、って言わないように、恵那南中学校が開校することをきっかけにして、この5つの地域がひとつのまちだといえるような意識を増やしていきたいと思っている。
	今中学生の子たちが、二十年後地元に根付いたときに、お互いのことを「同じ中学校の同級生だ」と地域をまたいで文化が交流していくと、後藤委員が述べたような意識がどんどん薄れていくのではないかと考える。
出村会長	一方で、それだけ多彩な地域があるということは、多様性と捉えられて、今こそすごく重要だと思う。 「統合」ではなく「連携」となるとよいと考える。
堀委員	話が大きく変わるが、博物館ができたあとの運営はどのようにしていくのか。財源計画が大事だと思うが。
事務局 (服藤)	基本的には直営を考えている。将来的には文化課職員の中にも学芸員がいるため、職員が施設に入って、博物館業務を行いながら通常業務も行うということを考えている。
堀委員	市史編さん室の職員が博物館の企画展をやるイメージなのか。
事務局 (服藤)	1階の学びのひろばの運営のために、現在実際に2階には市史編さん室の職員が移動してきている。
堀委員	いっそのこと観光協会が運営してもいいかもしれない。物販で収益が上がるのではないか。
出村会長	半ば公である観光協会がそこにはまるかもしれない。その辺の検討は、今後されるわけだと思う。 今回の議題にあるこのページには整備事業についてだけが書かれているので、本来は運営について書くべきと思う。とても重要な観点と思うので、質疑応答で終わらずに取り組んでほしい。

5. その他

第3期恵那市歴史的風致維持向上計画に向けた方向性の検討について

事務局 (西尾)	(資料3に基づき事務局から説明)
出村会長	今の話で重要な部分は、未来を最初に描くという考え方である。これは新しい観点でもある。恵那全体がどのような社会を目指し、私たちが満足して住み続けるには何が必要なのかをリストアップする。必要なことを並べると、ありたい未来と現在との間にギャップがあることに気づく。そのギャップを乗り越えるために事業を行っていく、ということになる。未来が見えないままでは、どこに力を入れるべきか分からず、結果として様々なところに資金を投じてしまうこととなる。これは私が以前から危惧していたことである。今回の議論では、これに少し応えてくれそうと感じている。 決して悪い話ではないと思うが、さんはいかがだろうか。

市岡委員 (代理: 菊谷氏)	この会議出席にあたって初めて歴史的風致維持向上計画を読んだが、最終的なゴールがよくわからなかった。ゴールを先に見せることはエネルギーが必要なことが予想される。ただ、注目を浴びるような文化財保存ができる自治体は、最初に「こうありたい」という思いがある。計画にありたい未来を掲げることはよいことだと思う。
出村会長	ありたい未来が何でもいいわけでなく、総合計画から引っ張ってこればよいのでゼロから作る必要はない。 計画に未来を決めた後、20 年後同じものをを目指すのではなく、5 年おきに見直しするとよい。
鈴木委員	岩村にも「いわむらグランドデザイン」というものがある。ここでも「こうありたい」という未来をまとめている。これと同じようにまとめていくのだと思った。良い方向性と思う。
出村会長	ほかの意見なければ、この方向でよいということでおろしいだろうか。
	=会場異議なし=
出村会長	それでは議論は以上となる。

6. 閉会 (16 : 54)